歴史文化の特徴１

激動の大地がもたらす恵みと災い

資料 1-3

長野市は北部フォッサマグナ地域に位置し、激しい地殻変動を経験している。長野市の最高峰、高妻山（標高 2353m）も海底だった場所が隆起してできた。長野周辺の地殻変動は現在も続いている。特に長野盆地を形成した西縁断層は変動量が 2000mを超え、善光寺地震の震源でもあり、活動度の高い活断層である。

激しい断層の動きが、盆地を沈降させ、千曲川や犀川などの河川が市内で合流する原因をつくっている。河川の流入は、扇状地や氾濫原、自然堤防や後背湿地など多様な自然環境を生み出した。また隆起した山間地では地すべりが多く、それを利用して集落が形成されてきた。長野市北部にある飯縄山は山麓の湧水が長野盆地の水源となってきた。

こうした自然環境の多様性が素地となり、地域ごとに工夫した農耕や生活が営まれ、多様な生活文化を育成した。また地下から産する石油や天然ガスはかつてガラス製造などの燃料として、周囲の山地の岩石は今も石材として活用されている。

豊かな自然にはぐくまれた長野市だが、それは災害とも隣り合わせであることを意味している。令和元年東日本台風による被害は記憶に新しい。市内には我々の祖先たちが災害と闘いながら生き抜いてきた痕跡が数多く残されている。

海の生き物たち（①）

激しい地殻変動を示す痕跡（①）

大地のめぐみ（⑦-2、⑧-2）・・・**鉱山、 棚田**

川のめぐみ（⑦-1、⑧-2）

地　震（⑧-1）・・・**松代群発地震、神代断層地震**

地すべり（⑧-1）

洪　水（⑧-1）

※太ゴチック体は、前回の部会で出された意見

※（　）は前回提示した冊子「歴史文化の特徴」のストーリー番号を示している

歴史文化の特徴２

人々が交わる地「長野」

人々の交わりにも、いろいろなパターンがある。交通の要衝や町場で見られる人々の交わりや、寺社に参詣する人々の交わりといった日常的なものもあれば、多くの人々が戦闘員として駆り出される戦いも交わりの一つである。世に知られる川中島の合戦をはじめ、源平の戦いや南北朝の動乱など、長野市域では幾度も合戦が繰り広げられた。その跡は伝承とともに今も見ることができる。

近世になって整備された北国街道を軸に、各地をつなぐ道によって多くの物と人とが行きかうようになった長野市域。街道沿いには当時の面影を残す文化財が点在している。

長野市一帯は善光寺を代表として、市内各所の名所・旧跡を魅力ある観光地として発信し、多くの人々を迎え入れる文化をつくり上げてきた。その文化は平成 10 年において冬季オリンピック・パラリンピックの開催へと結実し、世界に「ＮＡＧＡＮＯ」の名を広めることとなった。

横田河原の戦い（⑤-1）

大塔合戦（⑤-1）

川中島の戦い（⑤-1）

山　城（⑤-1）

北國街道（⑤-3）・・・**脇街道、谷街道**

宿　場（⑤-3）

善光寺を核とした観光文化（⑥-3）・・・**絵解き、旅籠、権堂**

歴史文化の特徴３

信仰が息づく町「長野」

市内には善光寺を中心に、歴史的な神社仏閣や伝統行事が残されている。また長野盆地を取り囲むように広がる山々は、人々に多くの恵みをもたらすとともに、古くから信仰の対象とされてきた。そのなかには山岳修行を行う修験者たちの聖地となっていくような場所もみられた。江戸時代、庶民にまで広がった善光寺信仰や山岳信仰によって、人や物の往来が増え、山と山とをつなぐ信仰の道も整備されていった。このような神仏に対する人々の心は、明治時代の廃仏毀釈の嵐を経ながら、現在まで脈々と受け継がれ

水神信仰（③）

山岳信仰～戸隠山の信仰（③）・・・**天岩戸伝説、本地垂迹**

山岳信仰～飯縄山の信仰（③）・・・**石仏群**

山岳信仰～皆神山の信仰（③）

廃仏毀釈（③）

木食聖と虫倉山

善光寺信仰（④-1）・・・**善光寺境内の常夜燈、境内の建造物、善光寺周辺の社寺**
善光寺講、戸隠講、宿坊群、古道、駒形駒弓神社

歴史文化の特徴４

シナノから長野へ、政治経済の中心地

本市は古くは善光寺平を中心とするシナノの領域、北信濃、信濃国、長野県の政治経済の中心地として発展してきた。

５世紀代にはじまる内陸交通路（古東山道）の整備・拡充と馬匹生産の展開は、松代・若穂地域を中心とした千曲川流域に独自の積石塚古墳文化圏を現出させ、箱清水式土器文化圏を母体に大型前方後円墳の累代的築造に象徴される「シナノ」のクニから、広域行政圏である「科野」・「信濃」国を誕生させる社会再編の引き金となった。

古代、善光寺周辺には水内郡の中心地として郡家がおかれたとされる。中世には善光寺の存在が中央にも知られるようになり、都から参詣に訪れる人々も現れた。彼らを迎える善光寺周辺には門前町が形成され、以降一大商業地として発展していく。川中島の戦いを機に海津城が築城されて以来、城下町として発展していった松代も近世・近代を通じて政治経済の中心であった。

明治の廃藩置県以降、県庁所在地となったことを契機として、官公署や長野駅、工場が設置され、鉄道・道路の整備、電気やガス、水道等の近代インフラ整備が進められた。それに伴い、善光寺門前から長野駅にかけて擬洋風の近代建築物が相次いで建てられ、人口や物流の増加とともに、現在の市街地景観が形成された。

「シナノ」のクニ（②）

前方後円墳（②）

馬に関わる遺跡と遺物（②）

積石塚古墳（②）

門前町（④-2）・・・**弥栄神社御祭礼、丁石**

松代城（⑤-2）

武家屋敷（⑤-2）

佐久間象山ゆかりの文化財（⑤-2）

町　屋（⑤-2）

社寺建築（⑤-2）

泉水路（⑤-2）

長野村の県庁設立（⑥-1）

市街地の町並み（⑥-1）

近代インフラの促進（⑥-1）

歴史文化の特徴５

長野に生きる人々の暮らしと文化

標高差のある長野盆地で暮らす人々の生活は多様である。犀川と千曲川が合流する盆地平野部と周囲の中山間地とでは、気候や自然条件が大きく異なるため、同じ市内であってもかなり様相が異なっている。

平野部は二大河川が運ぶ土砂によって、作物が良く実る肥沃な土壌がもたらされた。また、川を利用し舟運が栄え、漁撈などが各所で行われるなど、河川がもたらす恵みを利用しながら暮らしてきた。

山間地では傾斜地が多いため米作は少なく、多種の作物を地域の自然環境に合った割合で組み合わせながら生計を立てていた。また通称西山地方と呼ばれる長野市西部中山間地域は、善光寺町の近郊という地の利を生かし、商品作物の栽培が盛んだった。

その暮らしが多様なように、この地域で育まれた文化も多様なものがある。

平野部の暮らし・・・**養蚕**

川とともに生きる（⑦-1）・・・**つけば、犀川での漁労、通船、荷上場**

多様な山のめぐみと人々の暮らし（⑦-2）・・・**麻生産の遺構、西山と門前をつなぐ道**
田村騒動、山中騒動、金納

道祖神の祭り（⑦-3）

全市に広がる獅子舞の輪（⑦-3）

長野の空を彩る煙火（⑦-3）

市内各地の御柱祭

特徴的な年中行事

長野の食文化・・・粉食文化、おやき

寺子屋・私塾での庶民教育（⑥-2）

松代藩文武学校（⑥-2）